

通し番号	4355
------	------

分類番号	20-17-12-01
------	-------------

(成果情報名) 水稲奨励品種「さとじまん」における茶米の発生と対策
[要約] 「さとじまん」は、出穂時期の降雨で着色粒（茶米）の発生が増加する。収穫が遅れると着色粒割合が増加するため、出穂後46～50日（積算温度1050～1122℃）で収穫すると整粒歩合が高く、玄米品質が良い。また、着色粒が多発した場合にはふるい目幅1.9mmで選別を行うと着色粒割合が減少する。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・野菜作物研究部 連絡先0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

2008年産「さとじまん」は着色粒（茶米）が多く発生した。そこで、「さとじまん」の着色粒の発生要因について考察するとともに玄米品質の向上方法について検討する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 「さとじまん」に発生する着色粒は、粒の表面に生じる茶色斑点が原因であるが、着色は果皮のみで、農産物検査法の規定では被害粒に分類される（データ略）。
- 2 収穫が遅れ登熟が進むにつれて粒厚が厚くなり収量及び千粒重が増加する傾向が見られるが（表1、図2）、着色粒割合は増加する（図3A）。
- 3 収穫が早く、登熟日数が短いと粒厚が薄く未熟粒が多くなる（図2、図3）。
- 4 出穂後46日から50日、積算温度1050℃から1122℃で収穫すると整粒歩合が高くなる（表1、図3）。
- 5 着色粒は粒厚が薄いため、1.9mm篩目で選別することで着色粒割合が減少する（図3）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 農産物検査法の規定では、着色粒は全面又は一部が着色した粒をいい、とう精によって除かれ精米の品質及び精米歩合に著しい影響を及ぼさないものは除かれるが、今回の調査では茶米も着色粒に含める。
- 2 着色粒割合は、ケット米粒判別機RN-500により測定する。

[具体的データ]

表1 登熟日数が収量及び千粒重に及ぼす影響 (2008年)

登熟日数	積算温度 (°C)	収量 (kg/a)	千粒重 (g)	整粒歩合 (%)
55日	1200°C	-	23.4	73.3
50日	1122°C	59.1	23.4	78.0
46日	1050°C	56.0	23.0	76.3
43日	999°C	56.3	23.0	72.6
40日	948°C	56.1	23.1	72.0
(キヌヒカリ)			22.5	

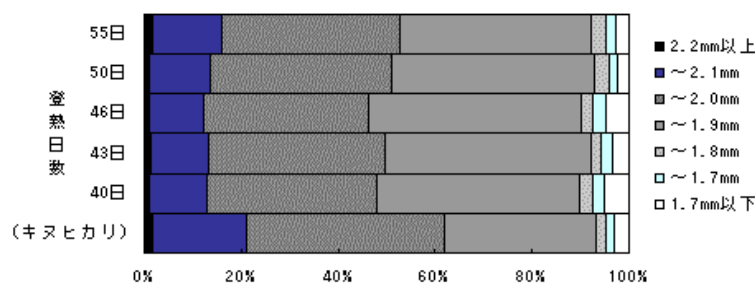


図2 登熟日数が「さとじまん」の粒厚に及ぼす影響 (2008年)

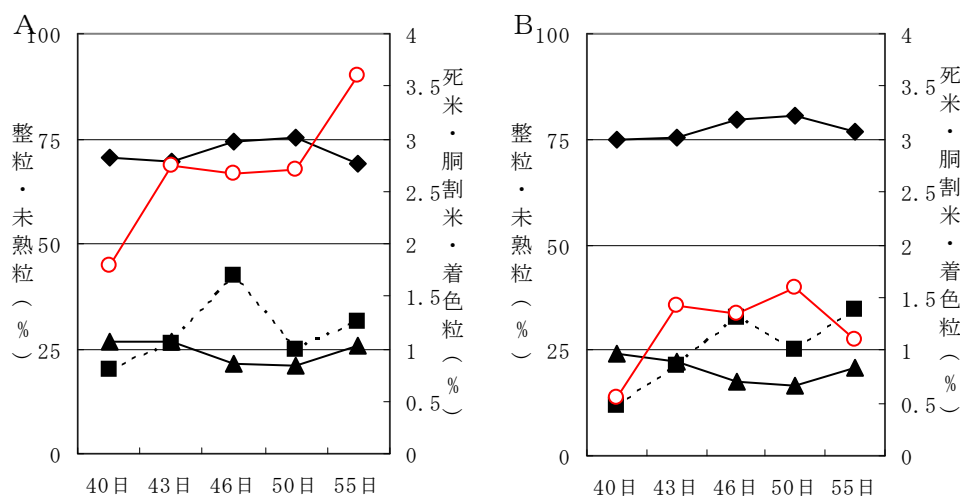


図3 収穫時期と選別ふるい目幅がさとじまんの玄米品質に及ぼす影響 (2008年)

玄米品質は登熟日数毎にケット米粒判別機RN-500により測定。◆：整粒歩合、▲：未熟粒、○：着色粒、■：胴割米。A：ふるい目幅1.7mm。B：ふるい目幅1.9mm。

[資料名] 平成20年度試験研究成績書 (作物)

[研究課題名] 地産地消に適した園芸作物の新品種選定及び栽培技術の確立

(1) 奨励品種決定調査事業

ア 水稻奨励品種決定調査事業

[研究期間] 平成20年度

[研究者担当名] 久保深雪・成松次郎